

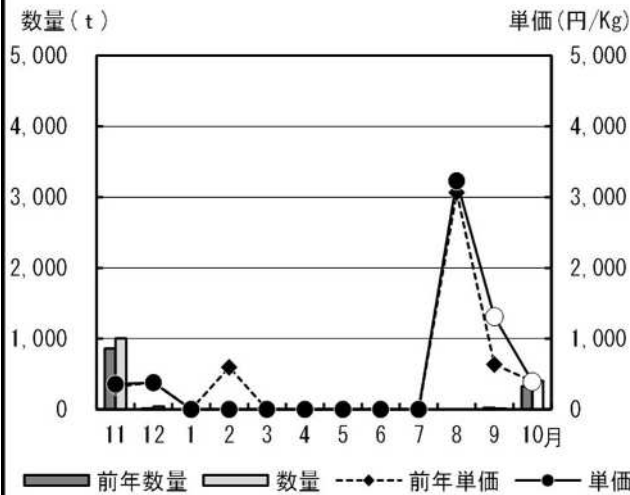
東京都中央卸売市場における10月の主要な愛知産青果物の動向

1 10月の見通し

品目名 かき

区分 実績等		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2020年	8,716	290	和歌山	54%	柿は全国的に作付面積が減少しており、引き合いが強まっている品目である。主産地が和歌山、奈良、福岡と西日本の産地が多い中、東京に近い愛知産の「次郎柿」には期待している。
	2021年	8,003	305	奈良	25%	
	2022年	10,271	272	新潟	7%	
	2023年	9,051	330			
	2024年	7,770	360			
	5ヵ年平均	8,762	311			
2025年見通し		8,300	360			

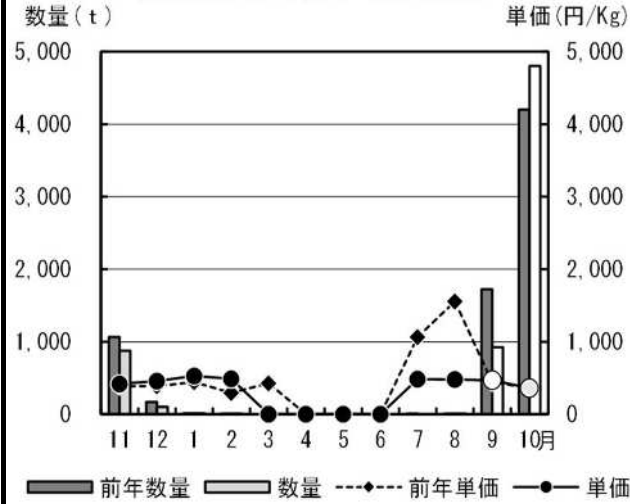
愛知産の動き



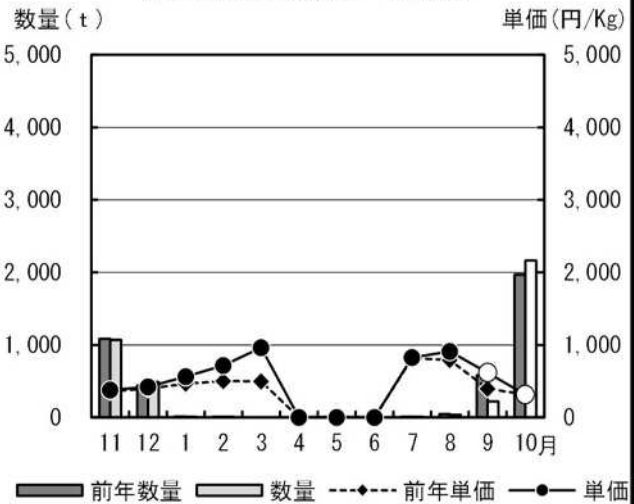
産地概況

前年は高温に加えてカメムシ被害が多く入荷量がかかなり減少した。現状、各産地カメムシ被害は少ない。
 本県「次郎柿」は高温と乾燥のため日焼け果が発生している。カイガラムシの発生が多いが、入荷量は少なかった前年を大幅に上回る見込み。
 「筆柿」は10月に入荷ピークを迎え、入荷量は前年をかなり上回る見込み。
 和歌山、奈良の「利根早生」と「平核無」は10月以降に入荷ピークとなり、サイズはLから2L中心となる見込み。

競合産地の動き (和歌山)



競合産地の動き (奈良)



2 入荷量・価格の動き

品目名 ぎんなん

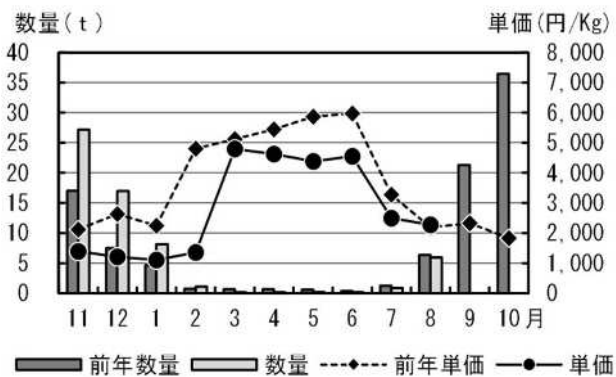
前年上位3産地(%)

愛知 46%

静岡 10%

福岡 8%

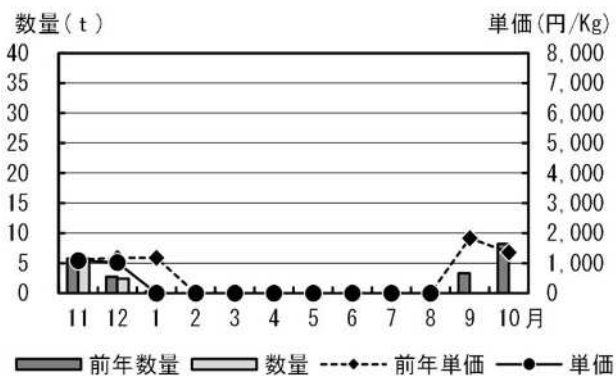
愛知産の動き



産地概況

主要産地の入荷量は、本県、競合産地の静岡、福岡のいずれも前年並と見込まれる。
品種については、本県及び競合産地のいずれも10月に入ると「藤九郎」の入荷が始まり、「久寿」と並行して入荷する。本県の「藤九郎」は着果量が多いため小玉傾向で、業務需要の多い3Lサイズが前年よりも少なくなる見込み。

競合産地の動き(静岡)



競合産地の動き(福岡)

